

平成27年度 岡山大学「ウーマン・テニユア・トラック」教員公募要項

●公募概要

国立大学法人岡山大学は、グローバルに展開する学術分野において、世界レベルの研究業績を生み出し、世界的な研究拠点として、知のコミュニケーション・センターの地位を達成することを目指しています。そのための事業の一つとして、質の高い女性教員の雇用促進・育成を目的とした「ウーマン・テニユア・トラック(WTT)教員制」を実施しています。WTT教員制では、WTT教員それぞれにメンター教員を配置し、また、必要に応じて研究支援者を採用するなど、ライフイベントに配慮したサポート体制を整えることで、女性教員が持てる資質・能力を教育・研究に遺憾なく発揮できるよう努めています。

本公募により採用されたWTT教員は、次世代を担う女性研究者として自立的に研究を進め、WTT期間中(5年間)の研究および教育業績に基づいた審査(テニユア審査)を経て、テニユア教員(常勤の教員)として採用されることとなります。

●公募要領

1. 職 種 : 特別契約職員 助教(特任)
2. 所 属 : 大学院環境生命科学研究科
3. 教育・研究領域 :

(1) 大学院環境生命科学研究科 農生命科学専攻 生物機能化学講座

農芸化学分野, 特に, 応用微生物学分野において優れた業績を有し, 同分野での教育研究に意欲的で, 有機化学・生物化学・応用微生物学に関する講義, 演習等を担当可能な方。

(2) 大学院環境生命科学研究科 環境科学専攻 人間生態学講座

数理学及び関連分野で優れた研究能力を有し, 学生の教育・研究指導にも熱意をもって取り組める方。特に, 計算機を用いて各種の偏微分方程式の近似解を求める数値シミュレーション及びその基盤となる数学において優れた能力を有し, 他の学問分野とも協力しながら現実問題への適用を積極的に推進できる方を望む。テニユア審査合格後は, 准教授として採用することを予定している。

(3) 大学院環境生命科学研究科 環境科学専攻 循環型社会形成学講座

持続可能な社会形成を基本理念とする環境工学における次の3分野, 1) 水質学・水処理工学等を含む広い意味での水環境学分野, 2) 廃棄物適正処理および資源・エネルギー回収等を含む廃棄物工学分野, 3) 前記各分野に関連する有害物質挙動解析等の分野, のいずれかまたは複数分野で優れた研究能力を有し, 学生の教育・研究指導にも熱意を持って取り組める方。

4. 採用人数 : 3名
5. 応募資格 : 博士の学位取得後10年以内の女性研究者(平成27年3月31日までに学位取得見込みの者を含む)
6. 採用予定日 : 平成27年4月1日
7. 任期(WTT期間) : 5年間(平成27年4月1日から平成32年3月31日まで)
8. 雇用条件等 :
 - 1) 給 与 等 : 月額30万円(諸手当を含む), 成績を反映した一時金支給(予算の範囲内)
 - 2) 勤務形態 : 1日7時間45分, 週38時間45分勤務(専門業務型裁量労働制)
 - 3) 福利厚生 : 文部科学省共済組合健康保険, 雇用保険, 労災保険適用
大学の職員宿舎, 乳幼児保育施設, 病児・病後児保育施設, 学童保育施設等を利用可能
※育児休業は, 採用後1年以降に取得可能(任期付職員のため, 取得時期に制限あり)

9. 研究費および研究環境 :
- ・1年目, 2年目にスタートアップ資金が措置される予定
 - ・共同利用研究施設に設置された70種以上の実験機器等を利用することが可能
10. テニユア教員への採用について :
- WTT期間が満了する4月前までに実施するテニユア審査において, テニユア教員への採用基準に達していると評価された場合は, 平成32年4月1日付けで岡山大学テニユア教員に採用する。
11. 提出書類 : 次のURLから入手可能
- http://www.okayama-u.ac.jp/user/jinji/diversity/wtt/public_offer/index.html
- 1) 履歴書
 - 2) 応募する教育・研究領域
 - 3) 応募の動機, 将来の大学教員(教育者及び研究者)像について
 - 4) 研究計画
 - 5) 研究業績
 - 6) 教育業績および教育に対する抱負
 - 7) 競争的資金獲得状況, 申請状況およびWTT期間中の資金獲得予定
 - 8) 推薦書(1名~2名)
12. 書類提出先 : 〒700-8530 岡山市北区津島中一丁目1番1号
岡山大学ダイバーシティ推進本部男女共同参画室 宛
※封筒表に朱書で「岡大WTT教員 応募」と明記
13. 提出方法 : 書留郵便にて郵送のこと (応募書類は返却しません)
14. 受付期間 : 平成26年6月24日から平成26年8月29日 17時まで【日本時間・必着】
15. 選考スケジュール :
- 1) 第一次審査 (書類選考) : 平成26年9月 (予定)
 - 2) 第二次審査 (面接, ヒアリング※) : 平成26年10月 (予定)
※論文等の別刷 (著書の場合には表紙と該当ページ) を提出していただきます。
 - 3) 選考結果の通知 : 平成27年1月 (予定)
16. 審査基準
- 1) 採用審査基準 (別紙1)
 - 2) テニユア審査基準 (別紙2)
17. 問い合わせ先 : 岡山大学ダイバーシティ推進本部男女共同参画室
TEL: 086-251-7011 FAX: 086-251-7033 E-mail: sankakul@adm.okayama-u.ac.jp

採用審査基準

第一次審査（書類審査）における評価項目

〔Ⅰ〕WTT教員として行う予定の研究提案について

(1) 提案の目的と内容説明

他分野の研究者にも十分説得力をもつように記述されているか。

(2) 提案の独創性と新規性及び国内外における位置づけ

本提案の独創的な点，新規性が明確に説明されているか。類似研究との違いが明確で，優位性が認められる研究であるか。

(3) 本提案の学術的・社会的な重要性及び科学的あるいは技術的な重要性

本提案の研究目的が達成されると，学術的にどのような波及効果が期待できるか。また将来の社会の発展にどのような波及効果が期待できるか。

(4) 研究計画及び計画の実現性

本提案の実行計画は合理的で実際に実現可能なものであるか。特に，テニユア審査の時点での実現が期待されるか。

〔Ⅱ〕これまでの研究業績について

(1) 過去の業績説明

他分野の研究者にも十分説得力をもつように記述されているか。

(2) 研究業績リスト

既発表論文の量と質は十分であるか。

〔Ⅲ〕これまでの教育業績，教育に対する抱負について

教育に関する経歴（学部・大学院の別，授業科目名及び単位数，講義・演習・実験・実習の別，講義等の内容，教育上の観点から特に留意した効果的・先進的な実践事項・事例）及び教育に対する抱負等が大学教員としての資質は十分と判断されるか。

〔Ⅳ〕競争的研究資金について

(1) WTT教員として研究を進めるための研究資金を競争的資金から独自に獲得することが期待できるか。

(2) 科学研究費等の研究資金獲得のための申請書作成能力は十分にあると考えられるか。

〔Ⅴ〕推薦書

当該研究者の研究立案能力及び研究推進能力は評価に値するものであるか。大学教員としての将来は期待できるか。

第二次審査(面接，ヒアリング)における評価項目

※業績リストに記載の論文(写)をすべて提出していただきます。

(1) 第一次審査の評価結果及び提出書類に関する質疑応答

(2) 面接における質疑応答，研究内容に関するプレゼンテーションと教育に関する業績，抱負及びそれに対する質疑応答

(3) コミュニケーション能力，プレゼンテーション能力

自分の考え，主張を明確に表現でき，説明できるか。学生の教育にも支障はないか。

研究内容を他分野の研究者，専門外の者にもわかりやすく説明できるか。

岡山大学 WTT 教員制度におけるテニユア審査の審査基準について

テニユア審査は、下記の内容に基づき実施する。

記

I. [1]～[6]についてはWTT教員が作成し，[7]～[9]についてはメンター教員が作成して提出すること。

- [1] 実施した研究について
- [2] 研究業績について
- [3] 教育業績について
- [4] 競争的研究資金への応募実績，資金の受け入れ状況について
- [5] 期間中における特記事項（受賞，表彰等）
- [6] 総合評価（自己評価）について
- [7] WTT教員期間中の簡単なメンタリングの経過報告書及び研究，教育，研究資金などに関する評価
- [8] WTT教員に関する特記事項など
- [9] その他，大学教員，一般社会人としての行動規範遵守など

II. テニユア審査基準はWTT教員が所属する部局の基準に準ずる。なお，以下の基準を参考にするものとする。

- [1] 研究論文，学会発表について
 - * 第一著者で，**Originality** に富み，**Impact** の高い論文が，最終評価までに少なくとも3編あることが望ましい（研究内容は，WTT教員期間のものが中心）。特に該当する領域で，**Impact** の高い論文と評価されるものであれば，**Revise** 中のものでもこれに含むことができる。
 - * 平均年1編の論文（共著も含む）が公刊されていることが望ましい。
 - * 学会などにおける発表は，平均年一回はあることが望ましい。
 - * 国際会議，シンポジウムなどへの参加が望ましい。
 - * 海外派遣助成金などへの積極的応募が望ましい。
- [2] 研究費について
 - * 積極的に外部資金（科学研究費など及び財団などの研究費）に応募し，WTT教員期間中に少なくとも2回は研究代表者として外部資金獲得があることが望ましい。

以上